

8月の中小企業月次景況調査

〔平成30年8月末現在〕

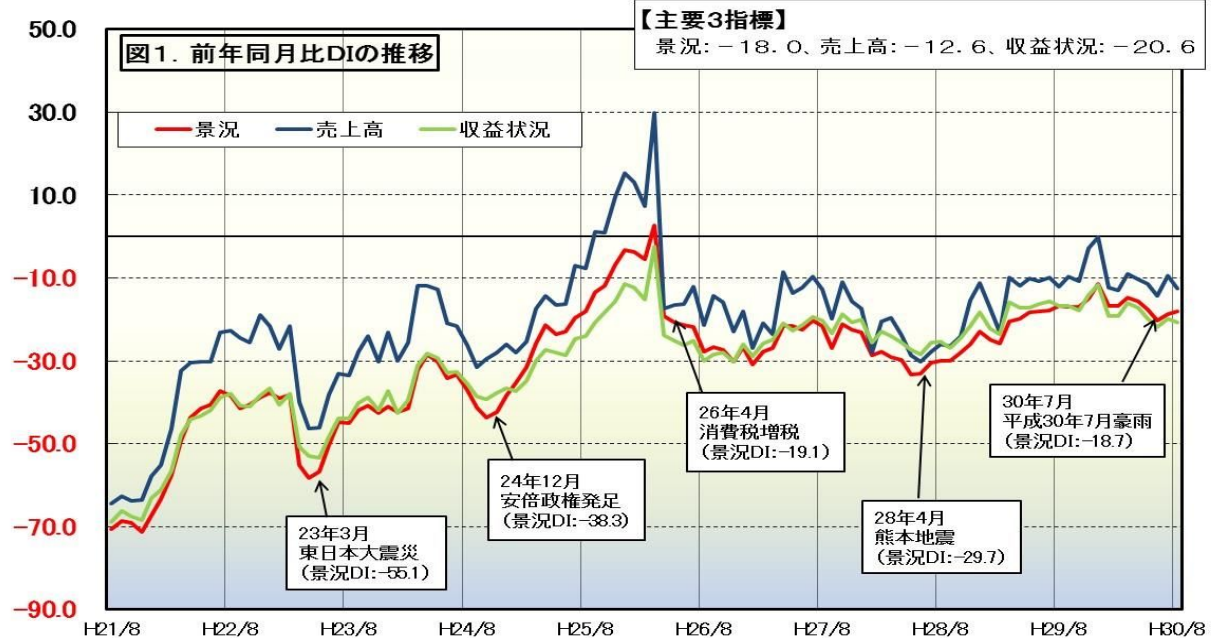


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成30年9月20日発表

◎8月のDIは、9指標中7指標が悪化。主要3指標については、 景況が0.7ポイント上昇したが、売上高・収益状況は悪化した。

- 当月は、記録的な猛暑と豪雨の双方が中小企業の景況感に大きく影響した。
- 景況DIは0.7ポイント上昇したが「悪化」から「不変」への変化が主因。実態はほぼ横ばいであり、中小企業の景況感は改善していない。
- 猛暑の影響で夏物商材の需要が堅調であった一方で、農産物・鮮魚等の品不足や価格上昇のほか、消費者の外出控えや作業現場の生産性低下なども発生しており、多くの業種の景況感を下押しする要因となっている。
- 原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力が引き続き強い環境下において、人手不足が一層深刻化していることから、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)

全国中小企業団体中央会

担当：政策推進部

TEL 03-3523-4902

<https://www.chuokai.or.jp>

8月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 8月のD Iは、9指標中7指標が前月比で悪化。
2. 主要3D Iについては、売上高・収益状況が悪化。景況は0.7ポイント上昇したが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。その他の指標については、取引条件を除く全指標が悪化した。
3. 雇用人員D Iは前月比0.5ポイント悪化の-8.6。6ポイント。厳しい雇用環境が続いており、広範な業種において人手不足が一層深刻な状況となっている。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

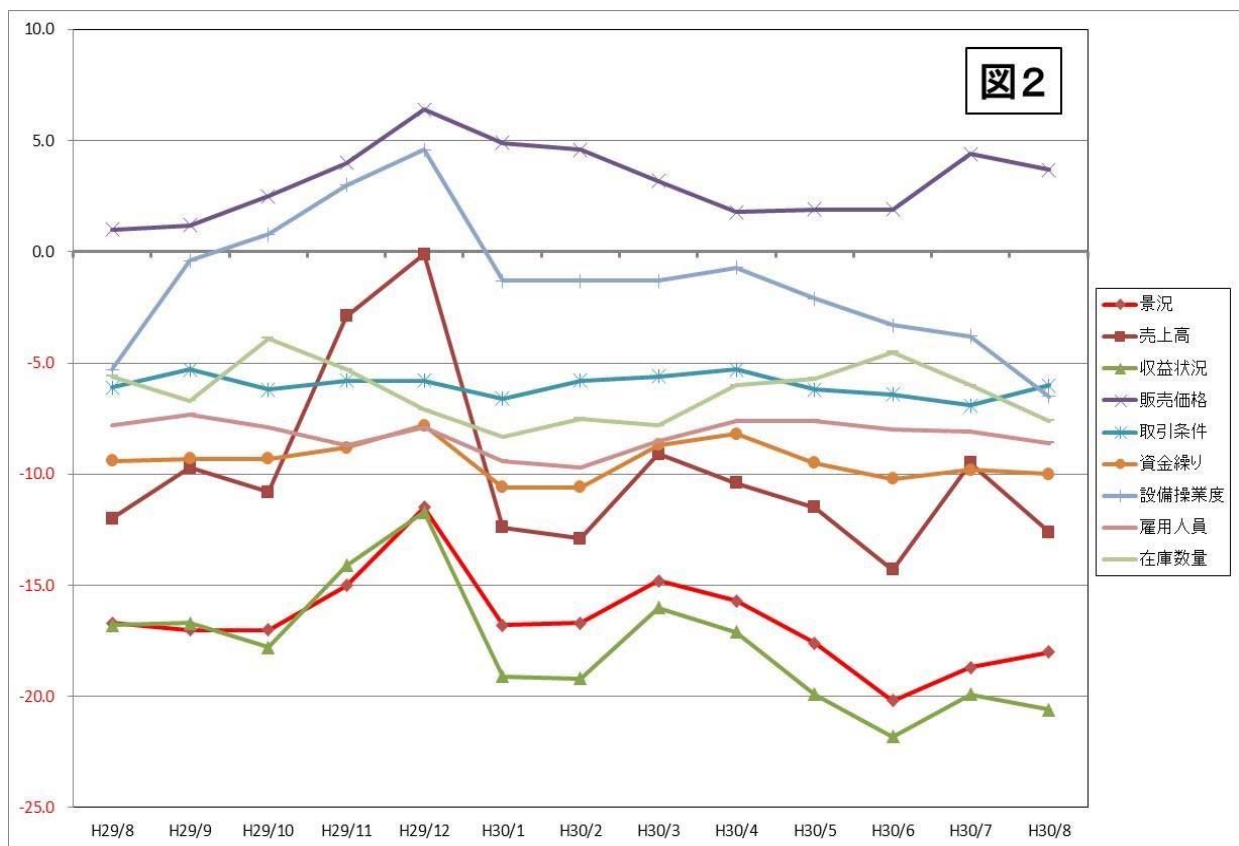


表1	H29 8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
景 況	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	0.7
売 上 高	-12.0	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-3.1
収益状況	-16.8	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-0.7
販売価格	1.0	1.2	2.5	4.0	6.4	4.9	4.6	3.2	1.8	1.9	1.9	4.4	3.7	-0.7
取引条件	-6.1	-5.3	-6.2	-5.8	-5.8	-6.6	-5.8	-5.6	-5.3	-6.2	-6.4	-6.9	-6.0	0.9
資金繰り	-9.4	-9.3	-9.3	-8.8	-7.8	-10.6	-10.6	-8.7	-8.2	-9.5	-10.2	-9.8	-10.0	-0.2
設備操業度	-5.3	-0.4	0.8	3.0	4.6	-1.3	-1.3	-1.3	-0.7	-2.1	-3.3	-3.8	-6.5	-2.7
雇用人員	-7.8	-7.3	-7.9	-8.7	-7.9	-9.4	-9.7	-8.5	-7.6	-7.6	-8.0	-8.1	-8.6	-0.5
在庫数量	-5.6	-6.7	-3.9	-5.3	-7.1	-8.3	-7.5	-7.8	-6.0	-5.7	-4.5	-6.0	-7.6	-1.6

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 主要3指標は、前月比で売上高DIと収益状況DIが悪化。景況DIは上昇したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。中小企業の景況感は依然として改善していない。
2. 記録的な猛暑と豪雨の影響が残存しており、清涼飲料やエアコン等の夏物商材の需要が引き続き堅調である一方で、農産物・鮮魚等の品不足や価格上昇が発生している。消費者の外出控えや作業現場の生産性低下などにも繋がっており、景況感を下押しする要因となっている。
3. 人手不足は一層深刻化しており、採用困難化・人件費高騰・受注断念・後継者不足による廃業等の声が多数寄せられている。

《主な報告内容》

◇記録的な猛暑等の影響

- ・異常な猛暑となり飲料水や家電製品の配送が前年より3割程度増えたが、人件費高騰及びガソリン価格上昇で収益が圧迫されている。業界のイメージの低下で、仕事はあるが、人が全く来ない状況が続いている。
(神奈川県／道路貨物)
- ・連日の猛暑・豪雨で来場者が激減。イベントを開催したが、台風により思うように客足が伸びず苦戦を強いられた。今月、2社が廃業となった。(埼玉県／卸売)
- ・7月の猛暑が続き、エアコンに販売が集中した。前年比で200%近い数字が出たものと思われ、電気店は8月のお盆までは7月から休みがない状態が続いた。(愛知県／家電小売)
- ・異例の台風来襲と猛暑によって、人々の出足は大きく削がれた。高齢化が進んだ中で、商店街への来街を促すことを躊躇させるような気候になってしまった。(奈良県／商店街)
- ・7月の豪雨被害や、その後の連日の猛暑に続き、相次ぐ台風の上陸等の影響により個人消費は大きく落ち込み厳しい状況になっている。(香川県／漆器)
- ・7月の西日本豪雨から8月末に発生した台風20号までのキャンセル被害は、過去経験がないほどのマイナス実績を伴い、期中での挽回は非常に厳しい状況。(高知県／旅館・ホテル)

◇調達の困難化

- ・売上は例年並みであり、予測よりは良い結果だった。しかし、原木仕入がうまくいかず、顧客に迷惑を掛けることとなった。自然災害も加わり、打開策もないまま需要期を迎えてしまう。(岐阜県／木材)
- ・異常気象で鮮魚、青果の入荷が例年より困難となっている。(熊本県／飲料小売)
- ・特殊鋼材の入荷が長期化しており、工場製作工程に支障が出ている。発注から納入まで通常の3倍くらい伸びている。(佐賀県／建設)

◇人手不足の一層の深刻化

- ・人材不足は求人を出しても相変わらず解消できず、海外就労者や廃業した企業の従業員の採用等で補い始めている。(神奈川県／工業中心の複合業種)
- ・原材料・電気料等のコスト上昇に加え、働き方改革の影響で人手不足感がより一層深刻な状況であり、事業継続を不安視する声が多くなっている。(福井県／織物工業)
- ・常に職員の確保が困難な状況が続いている。特に介護職員に関しては、現状の職員が高齢になっており体力的な問題で退職をされその穴埋めが完全にできていない。(兵庫県／社会福祉・介護事業)
- ・車載関係・医療関係に加えオリンピック関係製品(無線など)の特需生産が増加傾向にある。労働力不足は深刻化してきており、受注増加に対応できていない。(鳥取県／電子部品製造)
- ・原材料(鉄筋、骨材、セメント)、重油等の資材の値上傾向による収益の悪化及び慢性的な担い手(人材)不足が顕著となっていることを訴える組合社が増え、大きな懸念材料となってきた。(大分県／コンクリート製品)

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告(要旨)」等も参照。

1. 景 況

	前月	当月	増減	傾向
全体	▲ 18.7	▲ 18.0	0.7	上昇 ↗
製造業	▲ 17.1	▲ 15.4	1.7	上昇 ↗
非製造業	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	不変 →
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	化学・ゴム		
	5～10ポイント	鉄鋼・金属		
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし		
	5～10ポイント	電気機器、建設業		

表2. 業種別【景 況】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	前月比
全 体	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	0.7
製 造 業	-15.9	-15.3	-13.1	-8.8	-7.4	-11.6	-13.4	-11.5	-12.4	-12.1	-16.1	-17.1	-15.4	1.7
食料品	-30.0	-29.8	-27.5	-21.7	-19.1	-27.0	-29.8	-25.6	-27.2	-26.3	-30.1	-32.6	-32.3	0.3
繊維工業	-33.1	-36.3	-31.7	-25.4	-22.1	-27.0	-17.8	-20.7	-19.3	-19.3	-24.0	-27.5	-23.4	4.1
木材・木製品	-23.8	-17.7	-23.8	-21.4	-21.1	-25.5	-28.1	-28.8	-28.7	-24.1	-23.9	-28.4	-24.8	3.6
紙・紙加工品	-25.0	-17.4	-8.3	-8.4	-9.6	-14.3	-33.3	-16.7	-27.3	-33.3	-34.8	-42.9	-39.2	3.7
印刷	-41.3	-30.1	-31.1	-33.9	-29.5	-29.5	-29.5	-30.1	-37.1	-46.7	-40.3	-43.5	-39.0	4.5
化学・ゴム	-3.5	-3.5	-6.9	-3.5	3.5	3.5	3.3	6.9	0.0	0.0	-3.4	-17.3	-6.9	10.4
窯業・土石製品	-16.9	-21.3	-17.8	-8.7	-14.8	-23.0	-32.1	-23.5	-16.4	-20.4	-25.2	-23.0	-23.4	-0.4
鉄鋼・金属	8.8	8.6	11.4	17.1	20.1	17.4	20.6	19.3	20.8	17.2	10.1	7.5	12.6	5.1
一般機器	15.8	12.4	20.7	20.1	19.4	23.0	15.0	15.0	16.0	15.9	10.7	12.5	10.6	-1.9
電気機器	7.9	18.4	14.3	22.8	25.0	11.4	23.6	18.1	6.1	26.7	18.7	21.2	12.9	-8.3
輸送機器	-14.6	-17.0	-7.5	2.5	2.4	7.5	2.4	2.5	-5.0	2.5	-7.3	2.4	0.0	-2.4
その他の製造業	-24.5	-23.5	-23.1	-27.7	-18.8	-23.1	-28.8	-20.7	-32.1	-24.0	-28.3	-19.2	-20.3	-1.1
非 製 造 業	-17.3	-18.4	-20.0	-19.6	-14.7	-20.7	-19.3	-17.5	-18.2	-21.7	-23.3	-20.0	-20.0	0.0
卸 売 業	-17.8	-19.9	-21.9	-21.2	-14.2	-20.6	-19.2	-20.0	-24.9	-24.0	-28.1	-21.5	-20.9	0.6
小 売 業	-30.2	-33.8	-33.7	-35.9	-27.9	-30.3	-28.6	-28.1	-27.9	-28.1	-27.8	-25.2	-26.6	-1.4
商 店 街	-33.6	-31.0	-32.9	-31.5	-23.1	-35.2	-38.7	-31.7	-30.7	-33.3	-36.8	-41.1	-37.9	3.2
サービス業	-8.6	-12.3	-14.8	-10.4	-10.2	-15.2	-14.2	-8.9	-6.8	-13.1	-17.1	-17.1	-14.8	2.3
建 設 業	-0.4	1.6	1.2	-0.9	-0.4	-6.7	-2.5	-3.8	-8.4	-10.5	-9.6	2.1	-3.3	-5.4
運 輸 業	-13.6	-10.6	-16.5	-14.1	-7.6	-16.7	-13.9	-10.5	-10.0	-27.3	-28.2	-23.7	-20.6	3.1
その他の非製造業	-7.2	-14.3	-10.7	-17.9	-7.4	-11.1	-3.7	-17.9	-11.1	-10.7	-7.2	-21.4	-22.2	-0.8

Pick up!

「化学・ゴム」：豪雨の影響等により売上高D Iは低下したものの、受注環境は好調であり前月比10.4ポイント上昇。但し、前月の大幅低下以前の水準までは回復していない。

「電気機器」：稼働日数の低下に加えて災害復旧等の対応が必要となったこと等から前月比8.3ポイント悪化。景況D Iは引き続き2桁のプラスとなっているが、先行きを懸念する声もあった。

2. 売 上 高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.5	▲ 12.6	▲ 3.1	悪化	↘
製造業	▲ 7.9	▲ 11.1	▲ 3.2	悪化	↘
非製造業	▲ 10.8	▲ 13.8	▲ 3.0	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	紙・紙加工品、輸送機器、サービス業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	化学・ゴム、電気機器、その他の非製造業			
	5～10ポイント	印刷、鉄鋼・金属、一般機器、卸売業、商店街、建設業			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	前月比
全 体	-12.0	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-3.1
製 造 業	-9.1	-4.7	-3.8	3.5	4.1	-6.6	-8.2	-3.5	-6.3	-3.9	-7.1	-7.9	-11.1	-3.2
食料品	-21.8	-24.3	-21.5	-7.4	-4.0	-21.5	-27.8	-13.9	-20.6	-18.7	-26.5	-28.6	-31.3	-2.7
繊維工業	-22.0	-25.0	-17.1	-7.9	-13.1	-13.9	-9.7	-10.3	-17.7	-16.3	-16.0	-16.1	-12.1	4.0
木材・木製品	-23.8	-5.9	-19.5	-11.1	-16.0	-19.4	-26.4	-20.3	-13.9	-20.5	-21.2	-23.2	-27.4	-4.2
紙・紙加工品	0.0	-26.1	-4.1	4.2	9.6	14.3	-23.8	-20.9	0.0	4.1	-4.4	-14.3	-8.7	5.6
印刷	-41.2	-31.7	-31.2	-24.2	-18.0	-41.0	-34.5	-19.0	-35.5	-41.7	-38.7	-38.7	-45.8	-7.1
化学・ゴム	6.9	24.2	38.0	20.7	31.1	17.2	30.0	31.0	0.0	25.0	24.2	6.9	-3.4	-10.3
窯業・土石製品	-8.9	-5.2	-17.8	-2.9	-4.4	-32.6	-27.7	-22.8	-7.4	-5.3	-10.4	-15.6	-14.6	1.0
鉄鋼・金属	18.2	23.0	25.0	26.4	33.0	25.3	26.4	25.7	32.1	27.6	24.5	29.6	22.4	-7.2
一般機器	20.1	18.6	31.5	38.6	37.2	32.8	24.8	28.3	16.0	21.4	21.2	25.9	20.3	-5.6
電気機器	23.7	42.1	42.8	31.4	19.4	25.7	34.2	18.2	9.1	40.0	3.2	27.2	-9.7	-36.9
輸送機器	-4.9	-2.4	5.0	7.5	7.3	12.5	2.4	12.1	0.0	12.2	9.8	-2.4	4.7	7.1
その他の製造業	-35.8	-19.7	-17.3	-14.8	-7.5	-21.1	-19.2	-18.9	-32.1	-27.7	-18.9	-21.2	-25.9	-4.7
非 製 造 業	-14.1	-13.4	-16.1	-7.7	-3.4	-16.8	-16.4	-13.3	-13.7	-17.4	-18.7	-10.8	-13.8	-3.0
卸 売 業	-22.9	-16.7	-13.2	-6.0	6.0	-11.4	-11.4	-6.4	-18.9	-14.8	-21.0	-1.8	-7.4	-5.6
小 売 業	-21.9	-22.1	-29.3	-21.1	-8.0	-18.6	-16.0	-25.2	-26.6	-23.7	-28.4	-9.5	-13.9	-4.4
商 店 街	-25.6	-29.2	-41.4	-18.8	-16.5	-33.3	-41.0	-21.5	-18.1	-29.1	-26.4	-34.2	-39.7	-5.5
サ ー ビ ス 業	-3.2	-3.9	-11.2	-4.0	-8.0	-22.0	-19.4	-6.7	-5.1	-15.3	-17.5	-21.1	-13.0	8.1
建 設 業	-5.0	-7.5	-0.4	3.3	-3.8	-10.6	-5.4	-14.7	-8.5	-8.9	-11.4	1.2	-5.0	-6.2
運 輸 業	-5.3	0.8	1.5	11.2	20.6	-0.8	-10.7	0.0	3.1	-12.8	-10.7	-5.3	-8.4	-3.1
その他の非製造業	-14.3	-7.2	3.6	-14.3	-7.4	-18.5	0.0	7.1	7.4	-3.6	0.0	10.7	-22.2	-32.9

Pick up!

「紙・加工品」：猛暑の影響から飲料品・冷凍食品等に使用する段ボール製品の受注等が売上高DIを牽引し、**前月比5.6ポイント上昇**。一方、原材料費等の経営コスト増加が続いており、収益状況は悪化（収益状況DIは前月比9.4ポイント悪化の-52.2）。

「建設業」：原材料費の高騰・入手困難化に加え、人手不足が続いていることから受注に対応できないケースが発生しており、**前月比6.2ポイント悪化**。建設業は主要3指標全てが悪化した。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 19.9	▲ 20.6	▲ 0.7	悪化	↘
製造業	▲ 18.1	▲ 19.0	▲ 0.9	悪化	↘
非製造業	▲ 21.4	▲ 22.0	▲ 0.6	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	なし			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	鉄鋼・金属、電気機器			
	5～10ポイント	紙・紙加工品、印刷、建設業、その他の非製造業			

表4. 業種別【収益状況】D Iの推移（前年同月比）

業 種 名	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	前月比
全 体	-16.8	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-0.7
製 造 業	-16.6	-14.4	-14.0	-9.7	-8.6	-15.2	-15.8	-13.7	-14.5	-13.5	-16.9	-18.1	-19.0	-0.9
食料品	-27.5	-24.7	-25.5	-19.7	-16.1	-25.0	-29.8	-23.1	-24.6	-23.7	-28.1	-37.2	-33.9	3.3
繊維工業	-30.0	-29.9	-26.0	-17.5	-18.8	-23.0	-15.3	-17.5	-25.3	-27.9	-25.6	-24.2	-22.6	1.6
木材・木製品	-24.6	-15.1	-26.3	-22.3	-24.4	-29.7	-32.3	-31.3	-20.9	-25.9	-32.7	-25.0	-23.9	1.1
紙・紙加工品	-20.9	-21.8	-25.0	-25.0	-14.3	-38.1	-57.1	-54.1	-36.4	-41.6	-39.2	-42.8	-52.2	-9.4
印刷	-42.8	-31.7	-31.1	-29.1	-19.7	-27.9	-26.2	-22.3	-37.1	-33.4	-38.7	-43.5	-52.5	-9.0
化学・ゴム	-20.7	-17.3	-13.8	-10.4	-6.9	-3.4	-3.3	-13.8	-17.2	-5.6	-17.2	-31.1	-31.0	0.1
窯業・土石製品	-13.3	-13.2	-17.7	-8.0	-8.8	-29.6	-28.4	-15.4	-14.2	-9.1	-14.0	-16.3	-15.4	0.9
鉄鋼・金属	1.4	1.4	2.1	6.4	5.7	7.2	6.6	5.0	7.9	5.6	5.0	14.1	2.8	-11.3
一般機器	10.6	4.4	16.2	17.6	17.7	14.1	8.0	8.9	8.8	8.4	5.3	4.5	8.9	4.4
電気機器	5.3	18.4	28.5	20.0	13.9	8.5	15.8	3.0	0.0	3.4	3.1	-3.0	-16.1	-13.1
輸送機器	-24.3	-14.7	-7.5	-2.5	-4.9	0.0	7.4	7.3	-2.5	12.2	-2.5	-9.8	-11.6	-1.8
その他の製造業	-15.1	-19.7	-21.1	-25.9	-18.8	-21.1	-21.1	-20.8	-26.4	-22.2	-20.7	-21.1	-20.3	0.8
非 製 造 業	-17.0	-18.6	-20.7	-17.5	-14.1	-22.0	-21.8	-17.8	-19.1	-24.9	-25.7	-21.4	-22.0	-0.6
卸 売 業	-20.6	-24.5	-21.5	-14.7	-11.5	-17.4	-15.5	-16.8	-19.8	-22.1	-27.1	-13.6	-18.1	-4.5
小 売 業	-28.4	-31.2	-31.1	-33.0	-21.7	-27.7	-29.2	-27.8	-26.1	-28.9	-31.6	-25.2	-25.2	0.0
商 店 街	-26.2	-29.9	-37.8	-27.2	-23.2	-35.2	-38.7	-25.1	-25.0	-27.8	-32.5	-36.0	-34.2	1.8
サ ー ビ ス 業	-6.5	-8.8	-13.7	-6.5	-12.3	-19.9	-17.5	-10.7	-13.1	-24.8	-21.4	-21.9	-18.4	3.5
建 設 業	-4.2	-6.7	-4.2	-1.2	-3.0	-8.4	-8.0	-7.1	-11.0	-15.2	-13.9	-6.9	-12.6	-5.7
運 輸 業	-15.1	-8.3	-19.5	-23.1	-11.4	-26.5	-27.0	-19.5	-21.6	-34.8	-33.6	-31.2	-29.0	2.2
その他の非製造業	-17.9	-7.2	0.0	-14.3	-11.1	-25.9	-14.8	-14.3	-11.1	-14.3	-7.2	-17.9	-25.9	-8.0

Pick up!

「一般機器」：景況感は総じて堅調を維持しており、収益状況D Iは前月比4.4ポイント上昇。ただし、経営コストの上昇や出荷量のピークアウトを懸念する声が上がってきている。

「鉄鋼・金属」：原材料費と人件費の双方が高騰しており、収益状況は前月比11.3ポイント悪化。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.8	▲ 10.0	▲ 0.2	悪化	↘
製造業	▲ 7.8	▲ 8.0	▲ 0.2	悪化	↘
非製造業	▲ 11.3	▲ 11.6	▲ 0.3	悪化	↘
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	4.4	3.7	▲ 0.7	悪化	↘
製造業	4.5	2.3	▲ 2.2	悪化	↘
非製造業	4.2	4.7	0.5	上昇	↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.9	▲ 6.0	0.9	上昇	↗
製造業	▲ 5.2	▲ 4.6	0.6	上昇	↗
非製造業	▲ 8.1	▲ 7.1	1.0	上昇	↗
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 3.8	▲ 6.5	▲ 2.7	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 8.1	▲ 8.6	▲ 0.5	悪化	↘
製造業	▲ 3.2	▲ 5.4	▲ 2.2	悪化	↘
非製造業	▲ 11.9	▲ 11.1	0.8	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.0	▲ 7.6	▲ 1.6	悪化	↘
製造業	▲ 2.9	▲ 4.3	▲ 1.4	悪化	↘
非製造業	▲ 10.6	▲ 12.8	▲ 2.1	悪化	↘

~~Calendar 2018 国内外の主なトピックス（平成30年9月）~~

9月5日（水）

台風21号が上陸。関西国際空港の他、関西を中心とした幅広い企業・個人の活動に影響を及ぼした。

9月5日（水）

7月米国貿易収支（通関ベース）：対中国赤字額が前月比10.0%増の368億3400万ドル（約4兆1千億円）となり、単月として過去最大を記録。対中制裁の強化を検討するトランプ米政権への影響が懸念される。

9月6日（木）

北海道で震度7の地震が発生し、企業活動等に大きく影響。

9月7日（金）

平成31年度一般会計予算概算要求額（財務省発表）：30年度当初予算比約5.2%増で過去最大の102兆7658億円。政府の重点施策に配分する「特別枠」の要望も4兆3175億円と、記録が確認できる23年度以降で最大。

9月7日（金）

7月の景気動向指数速報値（内閣府）：景気の現状を示す一致指数が前月より0.6ポイント低い116.3となり、3か月連続でマイナスとなった。

9月8日(土)

中国税関総署貿易統計：8月の対米貿易黒字は310億ドル（約3兆4千億円）で、前年同月比18・7%増加。単月の黒字額としては過去最大。

9月10日(月)

平成30年4～6月期国内総生産（GDP、季節調整済み）改定値：年率換算で3・0%増となり、8月10日速報値の年率1・9%増から大幅に上方修正。4～6月期の法人企業統計を新たに反映して設備投資が大きく伸びた影響。28年1～3月期の年率3・4%増以来の大幅な伸びとなった。

9月14日(金)

月例経済報告：国内景気の基調判断は「緩やかに回復している」と9カ月連続で同じ表現。個別項目では設備投資の判断を引き上げた。

9月17日(月)

トランプ米政権が中国による知的財産権侵害を理由に、中国からの2千億ドル（約22兆円）相当の輸入品に追加関税を課す制裁措置の第3弾を24日に発動すると発表。

9月21日(金)

8月全国消費者物価指数（CPI）発表予定。

9月28日(金)

8月有効求人倍率、失業率、鉱工業生産（速報値）、新設住宅着工戸数等発表予定。

10月1日(月)

7-9月期日銀短観・四半期大企業製造業業況判断発表予定

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年8月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-18.0	-12.6	-20.6	3.7	-6.0	-10.0	-6.5	-8.6	-7.6
製 造 業	-15.4	-11.1	-19.0	2.3	-4.6	-8.0	-6.5	-5.4	-4.3
非 製 造 業	-20.0	-13.8	-22.0	4.7	-7.1	-11.6		-11.1	-12.8

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-32.3	-31.3	-33.9	1.6	-7.2	-14.3	-14.9	-12.3	-5.2
繊 維 工 業	-23.4	-12.1	-22.6	0.0	-5.7	-11.3	-13.7	-12.9	-8.8
木 材 ・ 木 製 品	-24.8	-27.4	-23.9	5.1	-5.1	-12.0	-17.1	-9.4	-11.1
紙 ・ 紙 加 工 品	-39.2	-8.7	-52.2	13.1	-17.4	-17.4	-21.8	-13.0	-4.3
印 刷	-39.0	-45.8	-52.5	-20.3	-18.6	-27.1	-39.0	-22.0	-10.2
化 学 ・ ゴ ム	-6.9	-3.4	-31.0	-3.5	-13.8	-10.4	-10.4	3.5	17.2
窯業・土石製品	-23.4	-14.6	-15.4	13.9	-2.2	-5.1	-11.7	-7.3	-7.3
鉄 鋼 ・ 金 属	12.6	22.4	2.8	6.3	0.7	3.5	19.6	5.6	1.4
一 般 機 器	10.6	20.3	8.9	2.6	3.5	2.7	14.1	5.3	4.5
電 気 機 器	12.9	-9.7	-16.1	0.0	0.0	-6.4	16.1	12.9	-3.2
輸 送 機 器	0.0	4.7	-11.6	-14.0	-4.6	0.0	-4.6	2.3	0.0
その他の製造業	-20.3	-25.9	-20.3	1.8	-5.5	-9.2	-5.6	-1.8	-9.3

(非 製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-20.9	-7.4	-18.1	8.3	-8.8	-9.8		-4.7	-10.3
小 売 業	-26.6	-13.9	-25.2	16.5	-12.4	-16.0		-13.6	-13.3
商 店 街	-37.9	-39.7	-34.2	-8.7	-10.6	-21.1		-11.2	-15.0
サ ー ビ ス 業	-14.8	-13.0	-18.4	-2.8	-4.7	-10.4		-11.2	
建 設 業	-3.3	-5.0	-12.6	1.6	-2.6	-4.6		-7.5	
運 輸 業	-20.6	-8.4	-29.0	6.9	-1.5	-7.6		-24.4	
	-22.2	-22.2	-25.9	3.7	0.0	-7.4		0.0	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平成 30年 8月 末現在)

(単位: %)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全 体	製造業	8.5	65.0	26.5	20.5	46.4	33.1	9.1	61.2	29.7	12.2	79.3	8.5	3.0	87.9	9.0	4.5	81.0	14.5	13.0	67.5	19.5	5.9	79.6	14.5	9.3	73.7	16.9
	非製造業	9.9	64.8	25.3	21.2	46.5	32.3	9.6	61.8	28.6	10.4	81.6	8.1	3.9	87.5	8.5	5.8	80.4	13.8	13.0	67.5	19.5	8.0	78.7	13.4	11.0	73.7	15.3
非 製 造 業	建設業	7.4	65.1	27.4	20.0	46.3	33.8	8.6	60.7	30.6	13.6	77.5	8.9	2.3	88.3	9.4	3.5	81.5	15.1	0.0	0.0	0.0	4.3	80.3	15.4	6.7	73.8	19.5

(製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食 料 品	繊維工業	4.6	58.5	36.9	12.8	43.1	44.1	4.6	56.9	38.5	7.2	87.2	5.6	1.0	90.8	8.2	2.1	81.5	16.4	7.2	70.8	22.1	3.6	80.5	15.9	13.3	68.2	18.5
	木材・木製品	4.0	68.5	27.4	15.3	57.3	27.4	5.6	66.1	28.2	8.9	82.3	8.9	4.8	84.7	10.5	4.0	80.6	15.3	8.9	68.5	22.6	3.2	80.6	16.1	8.1	75.0	16.9
紙 ・ 紙 加 工 品	印刷	4.3	66.7	29.1	12.8	47.0	40.2	7.7	60.7	31.6	16.2	72.6	11.1	3.4	88.0	8.5	5.1	77.8	17.1	6.8	69.2	23.9	5.1	80.3	14.5	14.5	59.8	25.6
	化学・ゴム	4.3	52.2	43.5	21.7	47.8	30.4	4.3	39.1	56.5	17.4	78.3	4.3	0.0	82.6	17.4	4.3	73.9	21.7	4.3	69.6	26.1	8.7	69.6	21.7	8.7	78.3	13.0
窯業・土石製品	鉄鋼・金屬	1.7	57.6	40.7	1.7	50.8	47.5	1.7	44.1	54.2	1.7	76.3	22.0	1.7	78.0	20.3	1.7	69.5	28.8	1.7	57.6	40.7	1.7	74.6	23.7	3.4	83.1	13.6
	一般機器	13.8	65.5	20.7	27.6	41.4	31.0	6.9	55.2	37.9	10.3	75.9	13.8	3.4	79.3	17.2	3.4	82.8	13.8	17.2	55.2	27.6	13.8	75.9	10.3	31.0	55.2	13.8
電 気 機 器	輸送機器	8.0	60.6	31.4	28.5	28.5	43.1	13.1	58.4	28.5	19.0	75.9	5.1	5.1	87.6	7.3	8.0	78.8	13.1	12.4	63.5	24.1	3.6	85.4	10.9	7.3	78.1	14.6
	その他の製造業	23.1	66.4	10.5	32.9	56.6	10.5	16.1	70.6	13.3	12.6	81.1	6.3	7.0	86.7	6.3	10.5	82.5	7.0	27.3	65.0	7.7	14.0	77.6	8.4	11.2	79.0	9.8
電 気 機 器	輸送機器	17.7	75.2	7.1	32.7	54.9	12.4	18.6	71.7	9.7	5.3	92.0	2.7	4.4	94.7	0.9	8.0	86.7	5.3	21.2	71.7	7.1	15.0	75.2	9.7	13.3	77.9	8.8
	その他の製造業	19.4	74.2	6.5	29.0	32.3	38.7	9.7	64.5	25.8	6.5	87.1	6.5	3.2	93.5	3.2	6.5	80.6	12.9	25.8	64.5	9.7	16.1	80.6	3.2	12.9	71.0	16.1
輸 送 機 器	その他の製造業	18.6	62.8	18.6	34.9	30.2	30.2	14.0	60.5	25.6	2.3	81.4	16.3	4.7	86.0	9.3	9.3	81.4	9.3	16.3	62.8	20.9	20.9	60.5	18.6	7.0	86.0	7.0
	その他の製造業	5.6	68.5	25.9	7.4	59.3	33.3	5.6	68.5	25.9	11.1	79.6	9.3	5.6	83.3	11.1	5.6	79.6	14.8	7.4	79.6	13.0	9.3	79.6	11.1	7.4	75.9	16.7

(非製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸 売 業	小売業	7.9	63.3	28.8	24.2	44.2	31.6	9.8	62.3	27.9	19.5	69.3	11.2	3.3	84.7	12.1	2.8	84.7	12.6				6.5	82.3	11.2	8.8	72.1	19.1
	商店街	9.2	55.0	35.8	26.9	32.2	40.8	11.2	52.4	36.4	26.9	62.7	10.4	1.2	85.2	13.6	5.6	72.8	21.6				4.4	77.5	18.0	6.5	73.7	19.8
サ ー ビ ス 業	建設業	1.9	58.4	39.8	7.5	45.3	47.2	3.7	58.4	37.9	5.6	80.1	14.3	1.2	87.0	11.8	2.5	73.9	23.6				2.5	83.9	13.7	4.3	76.4	19.3
	運輸業	5.8	73.6	20.6	18.4	50.2	31.4	8.7	64.3	27.1	5.1	87.0	7.9	1.8	91.7	6.5	2.2	85.2	12.6				4.0	80.9	15.2			
建 設 業	運輸業	10.5	75.7	13.8	17.6	59.8	22.6	7.1	73.2	19.7	7.5	86.6	5.9	3.3	90.8	5.9	2.9	89.5	7.5				4.2	84.1	11.7			
	その他の非製造業	8.4	62.6	29.0	21.4	48.9	29.8	10.7	49.6	39.7	10.7	85.5	3.8	4.6	89.3	6.1	4.6	83.2	12.2				3.8	67.9	28.2			
その他の非製造業	建設業	0.0	77.8	22.2	3.7	70.4	25.9	0.0	74.1	25.9	3.7	96.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	92.6	7.4				0.0	100.0	0.0			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30年 8月 末現在)

〔全 国〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
業 種									
全 体	8.5	65.0	26.5	20.5	46.4	33.1	12.6	9.1	61.2
製造業	9.9	64.8	25.3	21.2	46.5	32.3	-11.1	9.6	61.8
非製造業	7.4	65.1	27.4	20.0	46.3	33.8	-13.8	8.6	60.7

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.2	65.6	27.2	18.3	47.7	34.1	-15.8	6.5	63.8
製造業	9.0	64.2	26.9	18.7	42.5	38.8	-20.1	6.7	59.0
非製造業	5.5	66.9	27.6	17.9	52.4	29.7	-11.8	6.2	68.3

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県

〔北海道・東北地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.0	66.7	27.3	18.6	45.6	35.8	-17.2	9.3	59.0
製造業	6.1	64.9	29.0	16.0	47.3	36.6	-20.6	7.6	61.1
非製造業	6.0	67.7	26.4	20.0	44.7	35.3	-15.3	10.2	57.9

〔中国地方〕

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.4	66.1	26.4	24.4	39.3	36.4	-12.0	11.2	59.9
製造業	7.9	71.1	21.1	21.9	43.0	35.1	-13.2	11.4	63.2
非製造業	7.0	61.7	31.3	26.6	35.9	37.5	-10.9	10.9	57.0

〔関東・甲信越地方〕

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	10.9	63.6	25.5	19.8	47.3	32.8	-13.0	10.5	60.2
製造業	13.5	59.9	26.6	22.1	44.2	33.7	-11.6	12.7	57.7
非製造業	9.1	66.2	24.7	18.2	49.6	32.2	-14.0	8.8	61.9

〔四国地方〕

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	10.2	60.5	29.4	19.8	49.7	30.5	-10.7	9.6	65.5
製造業	8.9	65.8	25.3	17.7	58.2	24.1	-6.4	8.9	70.9
非製造業	11.2	56.1	32.7	21.4	42.9	35.7	-14.3	10.2	61.2

〔東海・北陸地方〕

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

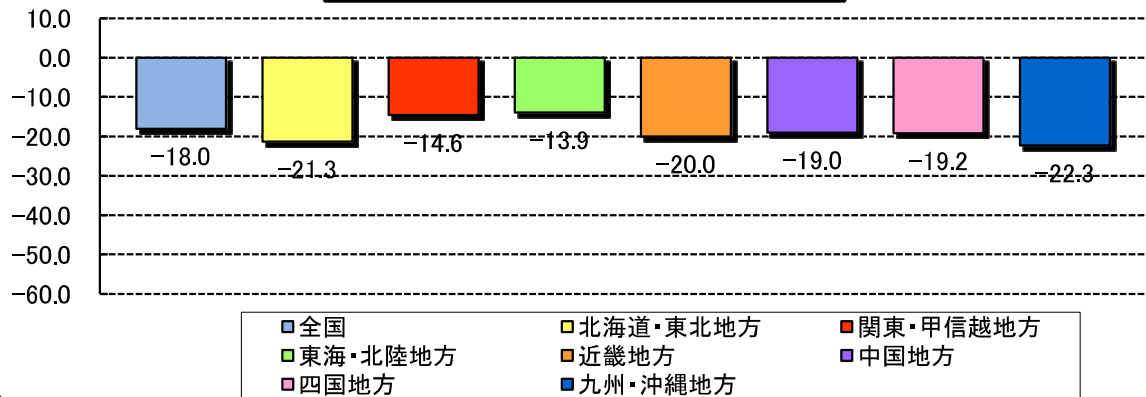
項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	10.5	65.0	24.4	20.6	49.4	30.1	-9.5	8.2	61.2
製造業	12.9	66.0	21.1	23.7	52.6	23.7	0.0	9.3	63.9
非製造業	8.2	64.1	27.7	17.4	46.2	36.4	-19.0	7.2	58.5

〔九州・沖縄地方〕

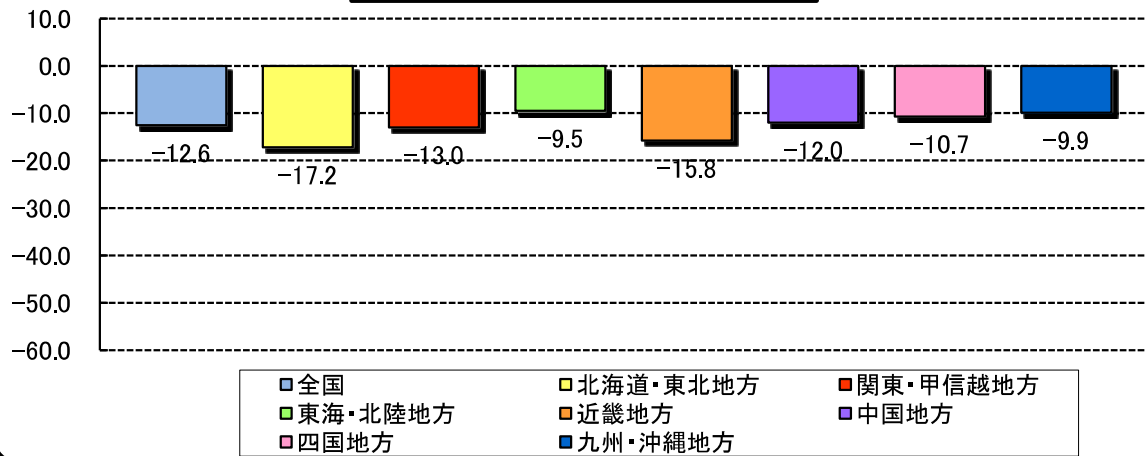
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	5.5	66.7	27.8	22.9	44.4	32.8	-9.9	7.7	62.0
製造業	6.0	67.1	26.8	24.2	42.3	33.6	-9.4	8.1	63.8
非製造業	5.1	66.4	28.5	22.0	45.8	32.2	-10.2	7.5	60.7

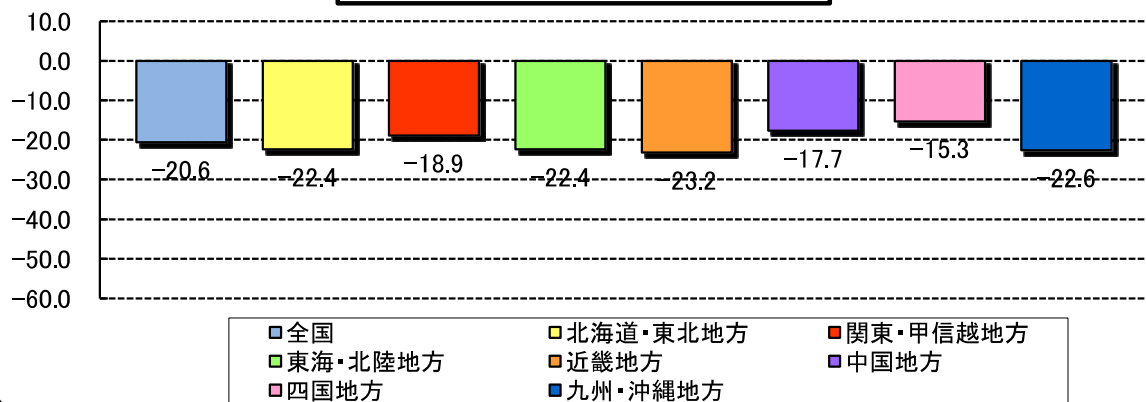
全国及び各地域別の【業況DI(全体)】
(平成30年8月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年8月末現在・前年同月比)



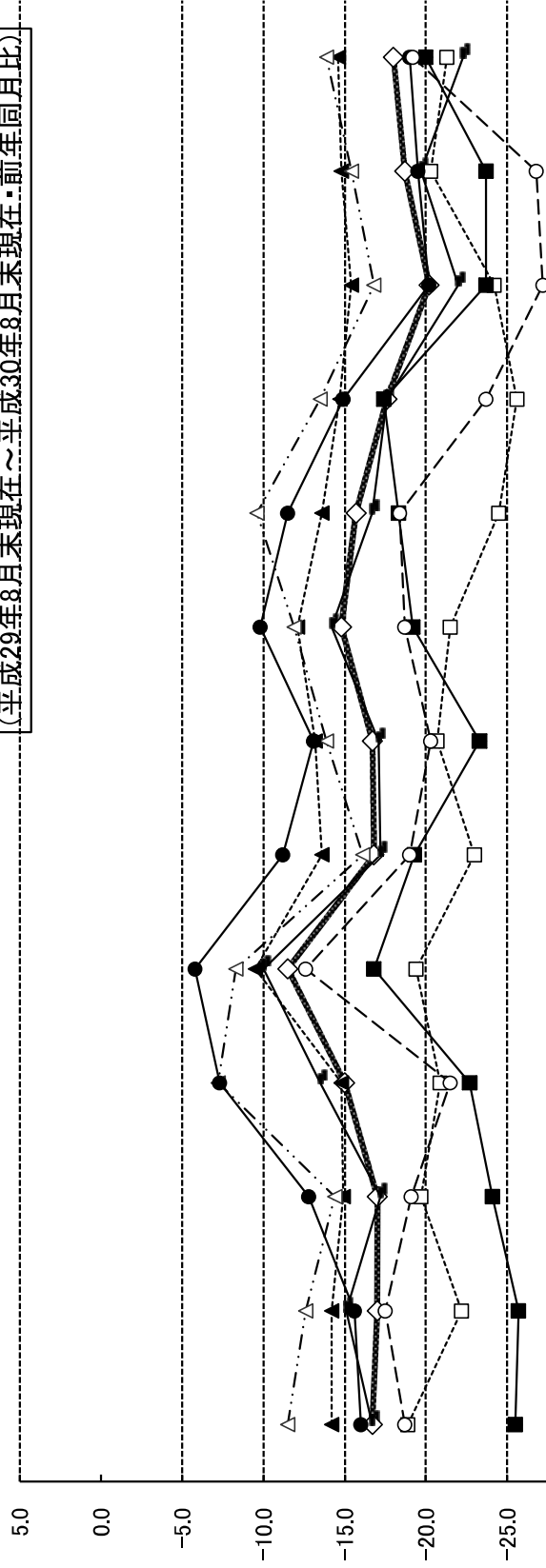
全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年8月末現在・前年同月比)



〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕
〔東海・北陸地方〕
〔近畿地方〕
〔中国地方〕
〔四国地方〕
〔九州・沖縄地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
徳島県、香川県、愛媛県、高知県
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(平成29年8月末現在～平成30年8月末現在・前年同月比)



	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	30年 1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
系列1	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0
系列2	-18.9	-22.2	-19.7	-20.9	-19.4	-23.0	-20.7	-21.5	-24.5	-25.6	-24.2	-20.3	-21.3
系列3	-14.2	-14.2	-14.9	-14.8	-9.5	-13.6	-13.2	-12.1	-13.6	-14.7	-15.4	-14.8	-14.6
系列4	-11.5	-12.6	-14.4	-7.2	-8.3	-16.1	-13.9	-11.9	-9.6	-13.5	-16.8	-15.4	-13.9
系列5	-25.5	-25.7	-24.1	-22.7	-16.8	-19.3	-23.3	-19.2	-18.3	-17.4	-23.7	-23.7	-20.0
系列6	-16.0	-15.6	-12.8	-7.3	-5.8	-11.2	-13.1	-9.8	-11.5	-14.9	-20.2	-19.5	-19.0
系列7	-18.7	-17.5	-19.1	-21.5	-12.6	-19.0	-20.3	-18.7	-18.4	-23.7	-27.2	-26.8	-19.2
系列8	-16.7	-15.1	-17.2	-13.5	-10.0	-17.2	-17.1	-14.2	-16.7	-17.6	-22.0	-19.7	-22.3

〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
 〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
 〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
 〔中国地方(系列6)〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 〔四国地方(系列7)〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品>
原材料価格の高止まりが続き、取引条件、収益状況、業界の景況は前年同期と比べて悪化している。
2. <埼玉県 麺類製造業>
スーパー等大型小売店における夏物商品（冷し中華めん、そうめん等）の売上は堅調。中小事業者における配送員等の人手不足がみられる。
3. <富山県 豆腐製造業>
売上は、8月上旬は順調だったが、猛暑のため中旬頃から伸びず、売れ残るようになった。人手不足は変わらず、賃金も上げられないため、悪循環。
4. <愛知県 めん類>
原材料等の値上げが実施されても販売価格には反映できず、業況が悪化している。組合員の中では大手のメーカーが廃業し、影響が心配。
5. <和歌山県 パン・菓子製造>
8月は、猛暑により和菓子店・洋菓子店共に客数が減り売上高の減少となった。また、電気代等のコストアップで収益環境が悪化した。
6. <岡山県 米菓>
お盆前の忙しさが無い。暑さによる消費低迷が顕著に表れた夏だった。豪雨の影響ばかりではないと思われる。お盆休みの空港、駅は比較的好調。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維>
受注はあるが、従業員の減少により生産能力が低下し、要望に応えられない状況が続いている。生産コストが上昇の一途であり、経営的には非常に厳しい状況にある。
8. <東京都 ニット製品製造業>
連日の猛暑や台風の影響等により、衣料品の動きは芳しくない。消費マインドは実需買になっており、必要な物だけを買う傾向にあることから、衣料品を取り巻く環境は非常に厳しい。
9. <神奈川県 テントシート>
業界全体の高齢化が進んでいる。特に後継者がいないところでは廃業に近い状態が続き、その分の仕事が近隣の同業者に回って来るなどして、多少の人手不足感が出始めている。
10. <福井県 織物工業>
原材料・電気料等のコスト上昇に加え、働き方改革の影響で人手不足感がより一層深刻な状況であり、事業継続を不安視する声が多くなっている。
11. <岐阜県 メリヤス>
就業者の高齢化が進む現状では、技術の継承は言うまでもなく、人手不足が企業存続に大ダメージを与えている。絶対条件である設備投資をあきらめる企業が発生しているのは寂しい限り。
12. <愛媛県 縫製>
人手不足は心配だが、それに伴い現従業員の人件費もベースアップせざるを得ない。収益と経費のバランスを保つのが大変になってきている。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材>
販売価格を見直しして頂いていることで、売上高は前年比を維持しているものの、仕入単価の上昇と生産効率の悪化から収益は昨年より落ちている。
14. <富山県 その他の木製品製造業>
組合員の高齢化のため、死亡・廃業による退会が進んでいる。
15. <岐阜県 ひのき>
売上は例年並みであり、予測していたよりは良い結果だった。しかし、原木仕入がうまくいかず、顧客に迷惑をかけることとなった。自然災害も加わり、打開策もないまま需要期を迎えてしまう。
16. <和歌山県 建具製造>
依然として景気回復の兆しなく厳しい状態。資金体力がない小規模零細企業は、資金繰りが不安になるため大きな受注を控える傾向にある。

17. < 熊 本 県 一般製材業 >
原木価格上昇と必要量の確保に加え、人材確保も課題。

18. < 熊 本 県 一般製材業 >
全体的な雰囲気は先月とほぼ変わらずの推移。しかし原木は梅雨の影響か出材不足気味であるため、価格が上昇傾向。人手不足や資材高騰等の課題もある。

紙・紙加工品製造業

19. < 群 馬 県 紙製容器製造業 >
8月も、前月から続く猛暑の影響で全く不調。全体的に動きはあるものの軒並み数量を減らしている状態。原材料価格の値上げが徐々に浸透してきており、販売価格の低下や収益の圧迫を招いている。
20. < 岐 阜 県 特殊紙 >
業界の景況が悪化している要因として、原材料の価格上昇・紙市場全体の規模の縮小・出荷数量の低下があげられる。
21. < 愛 知 県 段ボール >
猛暑の影響から飲料関係等は引き続き好調。一般工業製品は輸出関連が低調気味に推移している。古紙価格は米中貿易摩擦の影響から上昇に転じており、今後の原紙価格の動向が注目される。
22. < 三 重 県 紙器段ボール >
7月同様に、猛暑の影響で冷菓食品向けの段ボールケースの出荷が増加した。企業の夏休み・お盆休みが多い月であったが、ユーザーからの受注は好調の様子。
23. < 愛 媛 県 紙製品 >
通常、夏枯れといってとても暇になるのだが、今年は官公庁などの発注前倒しにより忙しくなっている。しかし、秋需はその反動がくるのは必至で、心していかなければならないであろう。
24. < 高 知 県 機械すき紙製造業 >
県内家庭紙メーカーは、それぞれに特化した商品を製造している為、稼働率にはそれほど変化はないが、原料資材・運賃・人件費の高騰により収益面で厳しい状況が続く。

印刷

25. < 秋 田 県 印刷・同関連業印刷 >
低価格の発注、受注は依然として改善されておらず、需要の点数、量とも回復していない。来年実施される元号変更、消費税増税に関する調整事項が続いている。
26. < 東 京 都 金属印刷業 >
他素材容器（紙、PET等）との厳しい競争、少ロット・多品種化によるコスト増、エネルギーコスト（ガス、電気）の値上げ等が課題。
27. < 愛 知 県 印刷 >
組合員の中には、後継者がいないことからやむを得ず廃業するところがある。
28. < 大 阪 府 シール印刷業 >
8月は低調で推移。比較的好不調なく推移していた汎用性の高いラベルの減速感が増してきた。その他食品・飲料分野でも減速感が出ている。
29. < 香 川 県 印刷 >
燃料、電気料の単価が上昇している中、この夏の気温上昇における電力使用量増加に伴う一般管理費が増加して、経営が悪化しかねない。
30. < 宮 崎 県 印刷・同関連業印刷 >
毎年8月は仕事の少ない時期ではあるが、今年は特に少なく思う。経費節減を理由に組合を脱退する企業もある。

化学・ゴム

31. < 神 奈 川 県 石油製品 >
7月以降の猛暑続きで、西日本を中心に豪雨の翌週は出荷量が大幅に落ち込んだが、それ以外の週の出荷は好調で、100キロリットルを大きく上回っている。猛暑がガソリンの需要を押し上げている。
32. < 長 野 県 プラスチック製品製造業 >
成形品は前年比若干の減で推移したが、金型受注が好調で全体としては対前年を上回った。8月の受注環境は、特に大手顧客の夏季休業等による稼働日減に伴い減少の見込み。
33. < 大 阪 府 石鹼洗剤製造業 >
洗浄剤全体では前年同月比マイナスとなったが、1月からの総計では改善傾向が見られる。既存品の価格は低下傾向になっている。
34. < 和 歌 山 県 化学工業 >
対前月比では、出荷量は全体として横ばいであったが、出荷額は減少。対前年同月比では出荷量及び出荷額ともに11%の増加。

35. < 岡 山 県 ゴム >
受注状況は引き続き堅調であるが、生産増に伴う人件費増、原材料費の高止まりなどが影響し収益状況は悪化。人員不足は開発関係にも及んできている。
36. < 広 島 県 プラスチック製品製造業 >
平成30年7月豪雨により、各企業とも直接、間接被害を受けている。また、マツダが未だ正常稼働していないため、自動車関連は売上低下に伴い軒並み減収となっている。

窯業・土石製品製造業

37. < 茨 城 県 焼物 >
今年の夏は特に高温だったこともあり、日中 外を歩いている人が少なかった。そのため、お店やギャラリーへの来店者も少なく、売上にも繋がってこなかった。
38. < 神 奈 川 県 砕石 >
猛暑・台風の影響で現場作業が遅れ、出荷が減少している。ダンプ運転手、工場要因の不足が目立ち始め、生産・出荷能力が下押しされるリスクに注意が必要。
39. < 香 川 県 石材加工 >
職人の高齢化が著しく、新たな人材も不足している。受注量が安定していないため、人材の受入方にも苦慮しているのが実情。
40. < 愛 媛 県 窯業・土石製品製造業 >
とにかく、かなり厳しいのは変わらない。人手不足も相変わらずであり折角の受注も断らなければならない状況。
41. < 佐 賀 県 陶土 >
3年前に行った価格改定による売上増加のアドバンテージは既になく、出荷数量に至っては過去最低を大きく更新する様で、かなり厳しい状況である。
42. < 大 分 県 コンクリート製品 >
原材料(鉄筋、骨材、セメント)、重油等の資材の値上傾向による収益の悪化及び慢性的な担い手(人材)不足が顕著となっていることを訴える組合社が増え、大きな懸念材料となってきた。

鉄鋼・金属製造業

43. < 福 島 県 鉄工工業 >
ここにきて材料確保が難しくなったため、材料費の値上がり等利益減少の恐れが出始めている。原料鉄を自動車産業に優先され建築用材料が減少している様子。
44. < 東 京 都 ダイカスト製品製造業 >
自動車向けの需要は堅調に推移しているが、人手不足による賃金の高騰や原材料の高騰により、収益悪化の組合員が出てきている。
45. < 神 奈 川 県 工業塗装 >
大企業が大幅に利益を出し、利益を留保しているが、塗装業界では単価が抑えられ厳しい状態にある。人手不足による会社規模の縮小や客先の変更等が少しずつ進んでいる。
46. < 新 潟 県 鉄骨製造業 >
稼働状況は全体として繁忙状況で推移しており、加工側が手一杯で、加工先が決まらず宙に浮いている案件も出てきている。高力ボルトの入手や、とび・運搬業者の手配が困難となってきた。
47. < 大 阪 府 金属熱処理業 >
材料の入手が困難等の理由から熱処理で納期遅れを取り戻そうという短納期受注も増加しており、それに伴う人件費が増加。燃料費も引き続き高騰が続く、増収が直接増益に繋がらない状況も継続している。
48. < 和 歌 山 県 金属製品製造 >
8月は、全体としては業績が好調な組合員が多くなっているが、規模・取扱製品の内容により、収益格差が大きい。

一般機器製造業

49. < 岩 手 県 一般機械器具製造業 >
半導体・建機・工作機械等に減速感が現れ、原材料工具等の値上げが続く。
50. < 石 川 県 機械工作钣金加工 >
月別の売上げ総額の推移を振り返ると、今年3月の売上高をピークに緩やかに下がってきている。懸念材料が絶えないことから、今年度後半は少々落ち込みがあるものと構えておいたほうが良さそうである。
51. < 愛 知 県 機械器具 >
足元の景況感が高く、生産の多忙感もあるが、収益面では下がっている。雇用の確保が難しく、効率が低下しており売上規模を維持することが精一杯。
52. < 京 都 府 一般機械器具製造業 >
景況感に大きな変化はなく好調を維持。大半の企業で繁忙状態が続いている。人材の確保が喫緊の課題である。

53. <大阪府 電線製造業>
自動車関連の出荷量はここへ来て頭打ちの状態が続いているが、住宅など建設関連の荷動きは僅かに動き出している。この動きがこのまま下期への本格需要に繋がることに期待している。
54. <山口県 一般機械器具製造業>
機械検査、機械加工関係、食肉加工、惣菜、自動車関係等全ての職種で業績は好調で、残業も多いが、職種に関係なく人員の不足が大きな課題となっている。

電気機器製造業

55. <山梨県 電気機械器具製造業>
半導体関連の受注の落ち込みが前月より大きくなり、先行きが不透明な状況が続くと考えている。
56. <愛知県 配電盤>
運送費が高騰し、収益を圧迫している。運送費が高いので、当方から納品を依頼しても運送業者を指定してくる悪循環のスパイラルに陥りそうだ。
57. <京都府 電機機械器具製造業>
受注が比較的良好な状況が継続するなか、人員不足により納期対応が難しくなっている。採用難は、解決しなければならない第一義的な課題となっており今後の経営に大きな問題を残す。
58. <鳥取県 電子部品製造業>
車載関係・医療関係に加えオリンピック関係製品（無線など）の特需生産が増加傾向にある。労働力不足は深刻化してきており、受注増加に対応できていない。
59. <広島県 電気機械器具製造業>
平成30年7月豪雨で製品・資材・仕掛及び設備が一部浸水したため、復旧作業に追われ前月比13%減少となった。前年同月比は7%増加となった。
60. <福岡県 電気機械器具製造業>
8月度売上高は、稼働日数の減少に伴い先月から若干減少（前年同月比でも同様）。産業用ロボット関連は、依然国内外とも好調に推移。

輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品>
生産高は全体的に上向きであるが、企業間の格差が大きい。取引条件としては、単価の引き下げを求められる傾向が強く厳しい状況。
62. <神奈川県 船舶>
韓国・中国の安値受注やグローバル的な需要減で厳しい対応を迫られている中、トラック輸送から船便にシフトする動きが鮮明になり、カーフェリーの新造船需要が高まってきている。
63. <愛知県 輸送用機械>
自動車関連の生産持ち直しが続く中、猛暑や自然災害が様々な影響を及ぼし、足踏み状態が続いている。生産用機械、工作機械や運搬機械の受注は増えたが、人材不足の中小企業は増加の一途。
64. <兵庫県 輸送用機器製造業>
新機種の販売が好調を持続し、かつ国内生産の平準化（前倒し生産）で閑散期としては好調を持続しているが、設備投資を控える動きもあり今後の動向を見守りたい。
65. <山口県 鉄道車両・同部品製造業>
鉄道車両、半導体製造装置、産業プラント部門ともに繁忙な状況が継続中。
66. <高知県 船舶製造・修理業>
受注面でやや一服感がある。操業度は受注残の消化等により高い水準で推移している。

その他の製造業

67. <岩手県 量製造業>
組合員が死亡により脱会。組合員の減少に歯止めがかからない。
68. <秋田県 曲げわっぱ>
需要は伸びているが原材料の入手が難しくなっており、生産も追いつかない状況が続いている。
69. <東京都 貴金属製品製造業>
売上への暑さの影響は否めず、全体的に経営状況は悪かった。物販への影響は顕著。
70. <神奈川県 工業中心の複合業種>
8月の景況は先月と同じ横這い状況。人材不足は求人を出しても相変わらず解消できず、海外就労者や廃業した企業の従業員の採用等で補い始めている。また、組合のホームページに求人情報も掲載している。

71. < 石 川 県 プラスチック製品製造業 >

8月は客先が連続休暇を長くとる傾向が顕著になってきており販売額としては伸び悩んでいる。客先の一部では、材料の価格上昇を認めていただく様な流れもあり、今後若干収益改善は見込めそうである。

72. < 香 川 県 漆器 >

7月の豪雨被害や、その後の連日の猛暑に続き、相次ぐ台風の上陸等の影響により個人消費は大きく落ち込み厳しい状況になっている。

《非製造業》

卸売業

73. < 埼 玉 県 卸売業 >
連日の猛暑・豪雨で来場者が激減。イベントを開催したが、台風により思うように客足が伸びず苦戦を強いられた。今月、2社が廃業となった。
74. < 神 奈 川 県 料理材料卸 >
酷暑の一ヶ月であった為か、外食へと向かう消費者（特に高齢者）の動きが大変鈍かったようである。全世界的な異常気象により、食材料費が徐々に高くなってきている。
75. < 大 阪 府 各種商品卸売業 >
猛暑につき飲料関係は好調だが特定の製品に品薄が見られる。また青果物の一部にも猛暑の影響により品薄が見られる。
76. < 兵 庫 県 建設材料卸売業 >
仕入値上昇と景況悪化による売上低迷にはさまれ、販売価格の上昇がしばらくは、企業努力で吸収できる度を超えている。
77. < 福 岡 県 電気機械器具卸業 >
猛暑でエアコンが売れるも、取付工事をする業者が間に合わない。
78. < 熊 本 県 野菜卸売業 >
野菜の品薄感が8月中旬まで続いた。単価は前年比124%と高値を維持し、取扱高は前年比120%を計上したため、資金繰り面では厳しい状況であった。

小売業

79. < 東 京 都 酒小売業 >
相変わらず、後継者不足、売上減による廃業によって、組合員の脱退が多い。規制緩和の影響によって、スーパー、ドラッグストア、コンビニに客が集中している。
80. < 愛 知 県 家電 >
7月の猛暑が続き、エアコンに販売が集中した。前年比で200%近い数字が出たものと思われ、電気店は8月のお盆までは7月から休みがない状態が続いた。
81. < 佐 賀 県 食料品（青果） >
8月はほぼ毎日35℃以上の日ばかりだったので、買い物の来客数も少なく、また売る野菜も満足に取り揃えることができなかったため高値となり、とても売り難い状況が続いた。
82. < 熊 本 県 飲食料品小売業 >
異常気象で鮮魚・青果の入荷が例年より困難となっている。
83. < 宮 崎 県 たばこ販売業 >
組合員の高齢化が相変わらず進んでおり、後継者不足はいよいよ切実になってきている。また、電子タバコの伸びもコンビニ側が先行しており、組合員の出遅れ感が強い。
84. < 鹿 児 島 県 石油販売業 >
お盆商戦後の反動で売上が伸び悩んでいるところで、原油価格の高騰で元売の仕切り価格も続いたため、小売価格の転嫁作業が厳しい状況となった。相変わらず人材不足に喘いでいる。

商店街

85. < 宮 城 県 仙台市 >
8月は国内観光客をはじめ外国人旅行団体も数多く見受けられたが、業種による店舗売上高の格差が大きい。また猛暑が続いた影響か、比較的物販よりも飲食関係の売上が伸びた。
86. < 山 形 県 山形市 >
猛暑の影響で月後半（お盆明け以降）の来客・売上が例年より厳しかった。商店街にある百貨店の好調さに支えられている状況だが、個店は厳しい経営が続いている。
87. < 千 葉 県 柏市 >
酷暑、台風の影響がかなりあった。来街者が日中極端に少なく感じた。午後4時過ぎからの商売と言う感じ。業種に関わらず同じ傾向であったようだ。
88. < 奈 良 県 県下全域 >
異例の台風来襲と猛暑によって、人々の出足は大きく削がれた。高齢化が進んだ中で、商店街への来街を促すことを躊躇させるような気候になってしまった。
89. < 和 歌 山 県 和歌山市 >
8月は高温や台風直撃など高齢者の多い商店街には最悪の条件が続き、過去にない売上高の減少となり、厳しい経済環境であった。

90. < 徳 島 県 徳島市 >
徳島の祭り、阿波おどりも今年は人混みもなく低調。また異常ともいえる暑さで人の動きは更に厳しく、各イベントをかかっているがサービス業などは動きが最悪だった。

サービス業

91. < 栃 木 県 給食センター >
米や野菜等の食材の値上げによりコストアップとなり、厳しい状況ではあるが、新規の得意先の開拓・新商品の開発・コストダウンにより、収益を改善する。
92. < 神 奈 川 県 温泉旅館・ホテル >
連日の猛暑・酷暑に加え、8月上旬の台風や豪雨による被災等から、国内客の消費減退が大きく影響しているが、インバウンドが相変わらず好調で国内客の減をкаろうじてカバーしている。
93. < 静 岡 県 宿泊業 >
台風13号の影響で、宿泊客が減少した。食事なしの素泊まり予約が増加し、売上高の減少に影響している。また、夏の海水浴客の落ち込みも集客に影響している。
94. < 滋 賀 県 理容 >
夏季休暇・お盆で売上は持ち直したが、来月は反動も大きい見込み。
95. < 島 根 県 旅館 >
西日本豪雨により、JRの運休、高速道路の寸断により7月は大幅に宿泊客数が減少したが、8月は前年を割るものの宿泊者が伸びた。
96. < 高 知 県 旅館・ホテル >
7月の西日本豪雨から8月末に発生した台風20号までのキャンセル被害は、過去経験がないほどのマイナス実績を伴い、期中での挽回は非常に厳しい状況。

建設業

97. < 岩 手 県 土木工事業 >
手持ち工事は増加して受注残は多いが、利益は減少。人員不足（熟練技術者）や下請業者の確保難、人件費の増加が経営上の問題点。今後、材料費の値上げなどによる一層の収益悪化が懸念される。
98. < 秋 田 県 一般建築 >
豪雨災害復旧工事と一般公共工事の同時発注が続き、人手不足等の要因による入札不調が多くなっている。
99. < 岐 阜 県 室内装飾 >
ほぼ全ての内装資材メーカーが10月より20%程度の値上げを実施する模様。施工・販売業者はすぐに値上げができない状況が一定期間発生する見込みで、利益を圧迫すると予想される。
100. < 愛 媛 県 鉄構 >
課題は相変わらずの鋼材価格の値上がりと鋼種による入手難。また、副資材でも入手難が起きている資材がある。建設現場での人手不足もあり、現場技能者の人件費上昇も考える必要がある。
101. < 佐 賀 県 鉄鋼業 >
特殊鋼材の入荷が長期化しており、工場製作工程に支障が出ている。発注から納入まで通常の3倍くらい伸びている。
102. < 沖 縄 県 管工事業 >
景気回復の兆しは見られるものの、公共工事は年々減少。民間工事においても、受注競争の激化で適正価格割れを起こし、経営圧迫の大きな要因となりそう。

運輸業

103. < 青 森 県 一般貨物自動車運送 >
天候不順の為、農産品輸送数量が極端に減少した。又、昨年秋から燃料が毎月のように上がり経費を押し上げている。雇用不足が続き車両台数は減少傾向。
104. < 神 奈 川 県 道路貨物 >
異常な猛暑となり飲料水や家電製品の配送が前年より3割程度増えたが、人件費とガソリン価格の上昇が収益を圧迫。業界イメージの低下で、仕事はあるが、人が全く来ない状況が続いている。
105. < 京 都 府 一般乗用旅客自動車運送業 >
猛暑続きの今夏、8月は例年になく忙しい夏になった。今春の運賃改定により短距離で安くなったため、涼しいタクシーでのチョイ乗り移動が多く見られた。
106. < 山 口 県 一般貨物自動車運送業 >
前年同月より売上は増加し、収益状況も良かった。豪雨災害で、従来貨物列車で運ばれていた荷物が、トラック輸送に回ってきているので、荷物量が増えてきている。
107. < 香 川 県 タクシー >
非常に厳しい経営状況が続いている。後継者不足から事業を譲渡している会社もある。乗務員不足が深刻化しており、配車依頼に十分対応できていない状況。

108. < 長 崎 県 運送業 >

8月は全体的に荷動きが悪く売上が減少した。軽油もまた上昇しており、収益を悪化させている。厳しい状況が続いている。

その他の非製造業

109. < 秋 田 県 砂利 >

ダム関連の骨材の荷動きが主で、他の公共工事での動きは鈍い。路盤材等の骨材はリサイクル材が主流であるが、材料不足で今後はバージン材の使用となる見通し。

110. < 神 奈 川 県 歯科技工 >

各事業所が猛暑対策の為、長めに夏休みを取り、粗利益は前年度と比べ6.4%減少した。歯科界全体の急速なデジタル化に対応しなければ利益を確保することが出来ない。

111. < 神 奈 川 県 不動産 >

建築コストの上昇等により新築戸建やマンションの価格が高止まり。中古住宅となった時に売却希望価格と市場価格とのギャップに仲介業者として苦勞するのではないかと今から不安になる。

112. < 新 潟 県 砂利採取 >

公共工事の発注が少なめで推移しており、秋以降の発注に期待している。

113. < 兵 庫 県 社会福祉・介護事業 >

常に職員の確保が困難な状況が続いている。特に介護職員に関しては、現状の職員が高齢になっており体力的な問題で退職をされその穴埋めが完全にできていない。

114. < 岡 山 県 信用組合 >

7月豪雨の影響で直接・間接被害を受けた事業者様は減収傾向であり、資金繰りにも影響が出始めている。対象先については随時面談を行い、緊急融資等にて対応している。